

教 育 文 化

今次大戦で、我が国の教育施設が受けた被害は甚大で且、学力低下は甚だしかつた。昭和21年米国教育使節団の勧告に基いて、文部省が6,3,3,3,4制の教育体系を立案、翌年から実施されたが、当時は校舎、机、椅子等の欠乏と教員、教科書の不足も加はり、また長い歴史を持つ我が国教育制度の一大改革でもあるため、新教育制度の運営は難行した。この新制度の趣旨は、小学校の6カ年と共に、中学校の3カ年を無月謝の義務教育とし、多くの人々に初等教育を開放して、教育の民主化と普及を図るためであり、同時に高等学校教育には、地方の実状に応じた職業課程が大きく取り上げられた。

我が国は明治5年に学制が実施され、小学校が設置されたが、それ以前から私塾、寺小屋制度が普及し、比較的教育は国民の間に行き渡っていた。昭和23年文部省で実施した「読み書き能力調査」では、10才以上の全国民中、文字の全然読めない数は1.6%となつている。勿論、年齢層別にみれば高令者の文盲は高率であろうが、それでもインドの82%、エジプトの74%、ブラジルの51%等と比較にならない程僅かである。

本県の明治6年における学校数は406校、生徒数は28,725人であつた。明治7年には千葉師範学校（現千葉大学教育学部）、同年には千葉中学校（現県立千葉第一高等学校）が設立された。しかし、教育が広く県民に行き渡つたのは、欧米と自由な文化交流が行われ、国勢の伸展した大正末期から、昭和にかけてである。その後社会状勢の変化、教育制度の改革を経て、昭和31年には1,342の学校と、562,977人の生徒、23,282人の教職員となつた。

激しい、そして不利な戦争は国民の体力を著しく減退させるが、我が国の児童生徒も、戦中戦後の体力は低下した。しかし、幸いにも世相の安定と共にその回復は素晴らしく、昭和30年には戦前を上廻る発育を示しているが、本県児童生徒の発育は、概ね全国平均を上廻っている。